

# 入鹿小だより

～わくわく登校・ニコニコ下校～

熊野市立入鹿小学校  
校長 樋口 佳洋  
平成 30年 12月 13日  
第 17号

## セントレアが入鹿小にやって来た！

12月10日（月）の5・6限に入鹿小学校で「セントレア出前社会教室」が行われました。これはセントレア（中部国際空港株式会社）が熊野市の小学生を対象に出前授業をしたいとの希望があり、それに応募したところ、入鹿小学校が当選し、実現したものです。では、どうして熊野市が対象になったのでしょうか。それは、セントレアを離発着する飛行機や東京と九州などを結ぶ飛行機の多くが熊野市の上空を飛んでいくからだそうです。



そう言われれば確かに学校上空に見えたり、エンジンの音がしたりすることが多いですね。

さて、当日は5限めはセントレアのことやそこで働く皆さんの仕事の様子を教えてくださいました。この中でいちばん盛り上がったのは「FLIGHTRADAR24」というアプリで、リアルタイムの飛行機の状況を見せてもらったときでした。このアプリは、世界中の飛行機が今どこを飛んでいるかを地図上に表すもので、見せてもらったその瞬間も、紀和町近くをセントレアへ向けて飛行機が1機飛んでいました。

6限めは柔らかいプラスチックでできた飛行機を作り、飛ばしてみました。ところが、



飛行機を作るのが結構難しかったようで、子どもたち、特に低学年の子たちは悪戦苦闘をしながらも、セントレアの方や高学年に教えてもらいながら、全員が完成させることができました。そして最後は誰が一番遠くまで飛ぶかの競争です。競争を前に特別ゲスト、セントレアのキャラクターである「謎の旅人フー」も登場して、体育館は大盛り上がりです。

よく飛んだ子には商品もいただき、勉強の内容も、体験のおもしろさも子どもたちは満足した様子でした。将来、航空関係の仕事に就きたいと思う児童がこの中から現れれば、この日の授業はとても意義深いものだったと言えますね。とは言え、地元紀和を盛り上げてほしい気持ちもありますから、複雑な気持ちではありますが……。



普段ならこちらから出向いて行かなくてはならないような体験を紀和にいながらにしないで、とてもありがたく思っています。セントレアのみなさん、ありがとうございました。

## ブラジルのクリスマス事情

ブラジルは国民の大部分がキリスト教信者の国ですから、クリスマスは大いに盛り上がります。まず、クリスマスが近づいてきたのを実感できるのがイルミネーションです。今でこそ日本でもクリスマスイルミネーションが盛んに行われるようになってきましたが、欧米では昔から恒例になっているようです。ショッピングセンター内にイルミネーションを施したり、クリスマスツリーを飾ったりするのはもちろんのことですが、いちばん目立つのは高層アパートです。アパートの道路に面した壁面等に電線をめぐらせ、そこに電球をつけていきます。そうするとアパートの形が浮かび上がってきます。私が住んでいたアパートはまだ控えめな方でしたが、中には派手なアパートもあり、「住んでいる人は眩しくないのかなあ」と思った日本人は私だけではないと思います。

日本のクリスマスとは大きくちがうところが2つあります。ひとつは、クリスマスケーキです。日本でクリスマスケーキといえばイチゴのケーキが一般的ですが（少し古いかな？）ブラジルでは、パネトーネというケーキが一般的です。これはイタリアの伝統的な菓子パンでドライフルーツやチョコレートがたくさん入っています。最近、日本でもときどき見かけますので、もしかしてご存知の方もいるかもしれませんね。

もうひとつのちがいは、ブラジルのクリスマスは真夏にやってくることです。12月には日本では冬ですが、南半球のブラジルでは真夏です。サンタクロースは赤い服を着てよい子の所へやって来ますが、ブラジルやオーストラリアへ来るサンタクロースはさぞかし暑い思いをしているでしょうね。

さらに、これはブラジルに限った話ではありませんが、キリスト教徒にとっては、クリスマスは1年中でいちばん大切な日です。そんな大切な日には家族といっしょに過ごすのが当然ですよ。というわけで、12月25日は街の店のほとんどがお休みです。日本では元日でさえ回転する店が増えてはいますが、海外、特にキリスト教の国ではクリスマスは休む日が常識のようです。日本にいる感覚で街へ出かけて行っても、レストランも含めてほとんどの店は閉まっていますから、大変なことになりますよ。



「FELIZ NATAL！」